

# 「原爆の子の像」





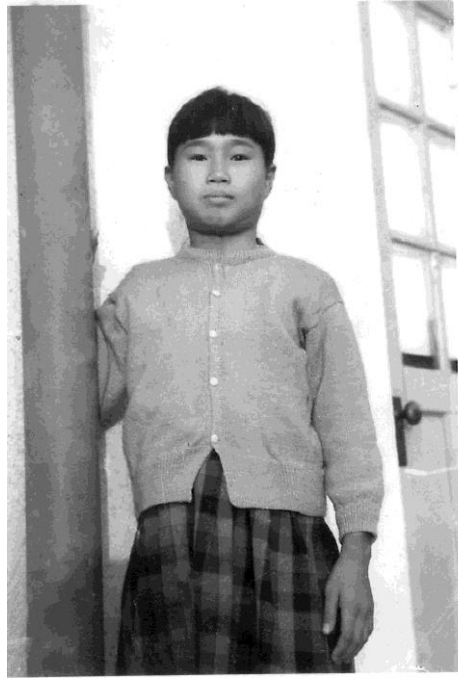
モデルとなっている少女

佐々木 禎子

1945年8月6日午前8時15分



爆心地から約1.6kmの楠木町で被爆



12歳の時(1954年11月下旬)いきなり体調を崩す。

2月18日に白血病と診断、

「早くて3か月、長くて一年の命。」と余命宣告。

2月21日に広島赤十字病院に入院。





八丁堀にあった3階建て理髪店兼自宅

入院当時、佐々木家は父が友人の保証人になったことがもとで、大変な借金を背負っていました。

白	14000	16日	白	11720
赤	420万		赤	341
血	178%		血	65%
	9日			23日
白	17200		白	2020
赤	320万		赤	420
血	63%		血	84%
	16日			30日
白	8200		白	8600
赤	406万		赤	339
血	177%		血	63%
	26日			
白	11100			

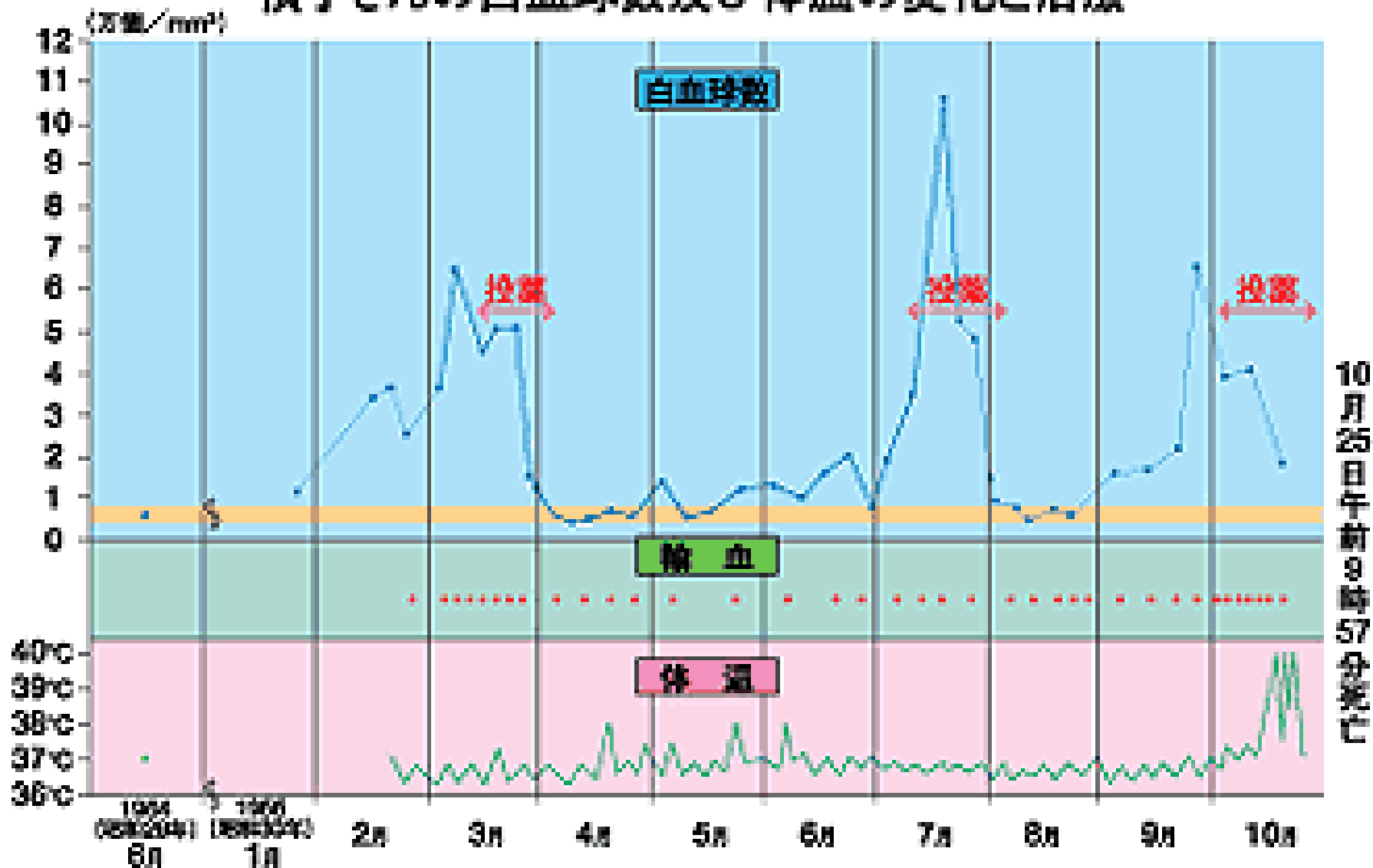
白血球

赤血球

血色素

の数値を書き移したメモ。

# 禎子さんの白血球数及び体温の変化と治療



10月25日午前8時57分発症

注) 白血球数の標準値 白血球数0.4~0.6万個/mm<sup>3</sup>。 1964(昭和39)年8月は健康診断での禎子さんの検査結果。



1955年7月18日。  
白血球108,400、最悪の日。





8月3日、名古屋の淑徳高校女学生から色とりどりの4000羽の折り鶴がお見舞いとして病院に送られてきました当時の記事。

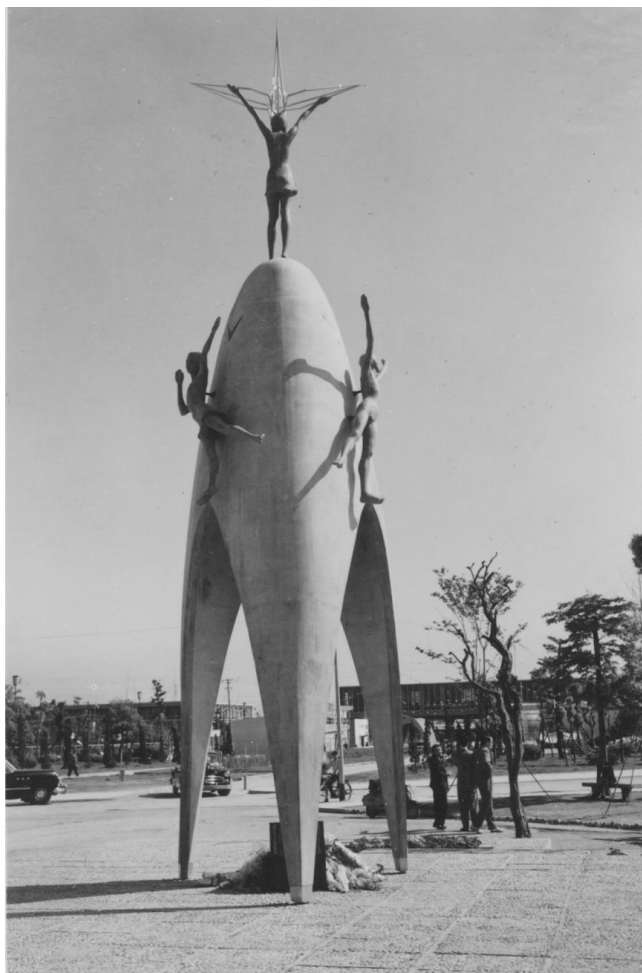


禎子は、自分が折った鶴つるに糸を通して、病室の天井からつるしました。折り始めて一カ月足らずの8月末までに禎子の折り鶴は千羽に達し、最終的に約1600羽の折り鶴を折りました。



10月25日の朝、禎子が危ないということで、家族が病室に集まりました。お父さんが何か食べるよう勧めると禎子は「お茶漬けが食べたい」と言い、急いで病院の食堂でお茶漬けを作ってもらい、一さじ口に含ませました。「おいしい」といって、二口目を食べると「おとうちゃん、おかあちゃん、みんなありがとね。。」と言って眠るように息を引き取りました。これが最後の言葉でした。

1955年10月25日午前9時57分 佐々木 禎子 永眠。



1958年5月5日。原爆の子の像除幕式。

## 禎子の鶴 寄贈先

- ①WTCワールドトリビュートセンター(NY グランドゼロ)
- ②ヨーロッパ平和博物館(オーストリア)
- ③USSアリゾナメモリアルパーク(ハワイ 真珠湾)
- ④ファーラビー映画財団(イラン テヘラン)
- ⑤ブラジル被爆者平和協会(ブラジル サンパウロ)
- ⑥トルーマンミュージアム(ミズーリ州 カンザスシティ)
- ⑦幟町小学校(広島市)
- ⑧新潟県長岡市
- ⑨沖縄県沖縄市
- ⑩福島県郡山市
- ⑪千葉県我孫子市
- ⑫日系人博物館(ロサンゼルス)
- ⑬寛容博物館(ロサンゼルス)
- ⑭Wendover 空軍基地博物館(ユタ州)
- ⑮神奈川県茅ヶ崎市
- ⑯チェルノブイリ博物館(ウクライナ)
- ⑰大刀洗平和記念館(福岡県)
- ⑱USSミズーリ(ハワイ 真珠湾)
- ⑲東京都中野区



# ユネスコ憲章(前文)

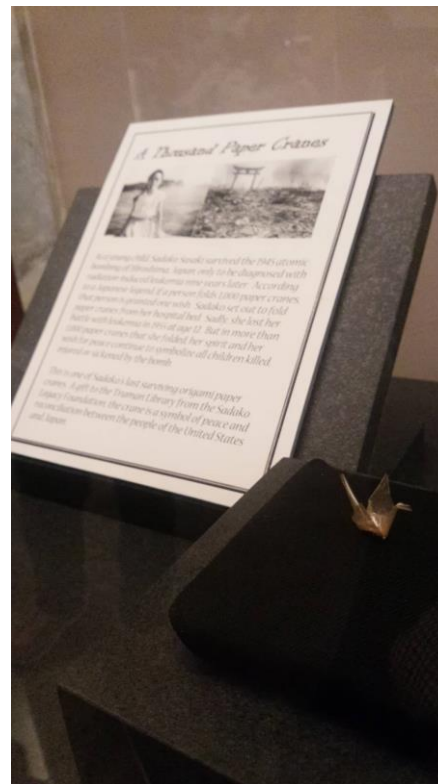
戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。

- 1945年8月6日、9日  
広島・長崎 原爆投下



原爆投下命令を下した  
元米国大統領

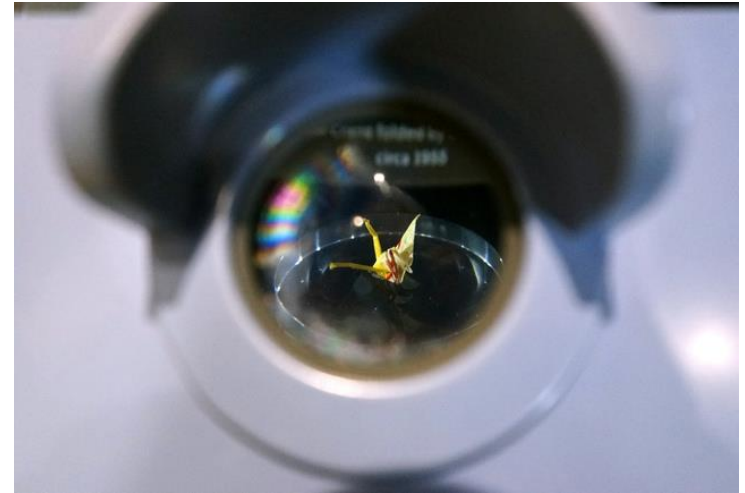
ハリー・S・トルーマン





ハリー・S・トルーマンの孫

クリフトン・トルーマン・ダニエル











# 平和の灯（福岡県八女市星野村）



広島の焼け野原に燃えていた火



# 平和の火を真珠湾へ



# 千羽鶴を再生利用

新型リサイクル固形燃料(RPF)







劇場用映画

# あかり 希望の灯

～折り鶴のキセキ～

佐々木禎子さんと  
禎子さんが折った折り鶴

佐々木禎子さんの物語を、その周辺の人々を描くことにより、浮き彫りにしていきます。なのでフィクションパートの主演は禎子さんではありません。主演は禎子さんの周囲の人たちや、家族です。禎子さんの兄や甥たちのドキュメンタリーパートと並行して観ている観客は、初めは混乱するかもしれませんが、しかし観ていくうちに、やがて自分たちが観ているフィクションパートが佐々木禎子に関する物語であることに気付いていきます。中盤から物語はドキュメンタリーパートと密接に絡みついていきやがてひとつの大きな物語、平和へのプロジェクトへと繋がっていきます。

## 監督 篠原哲雄



1989年に8ミリ『RUNNING HIGH』がPFF89特別賞を受賞。1993年に16ミリ『草の上の仕事』が神戸国際インディペンデント映画祭でグランプリ受賞。国内外の映画祭を経て劇場公開となる。山崎まさよしが主演した初長編『月とキャベツ』がヒット。2013年『スイートハートチョコレート』が韓国・光州国際映画祭で最高賞の審査員大賞を受賞。2018年、『花戦さ』で第41回日本アカデミー賞優秀監督賞を授賞。その他作品多数

ウクライナ侵攻、核拡散の問題など、今こそ戦争の記憶を風化させない為に、戦争の悲惨さや、人命の尊さそして平和とは何か？ 平和を築くとは一体、どういうことなのか？ それらを強く問いかけ、訴える作品が必要なのではないでしょうか？ 原爆投下から10年後、12歳の若さで白血病で亡くなった佐々木禎子さんの人生を軸に、原爆に翻弄された人たちの物語を紡ぐと同時に、戦争を知らない若者たちに、戦争、核、平和について問いかけます。

**巧みな構成と演出で、ドキュメンタリーとフィクションが、やがてひとつの線となり繋がっていく**

本作はドキュメンタリーパートとフィクションパートに分かれており、それぞれのパートが並行して進んでいきます。やがてその二つのパートが絡み合い、そして一本の線へと繋がっていき、物語はひとつの太い線となりラストへと向かって加速していきます。

## 製作費を集めます

この作品の製作資金は、・助成金・協賛金・寄付を中心に・投資も含め様々な方法で集めて参ります。

## 劇場公開の方法

広島県内での先行上映の後、全国～世界に向かって拡大上映を行っていきます。

### 【製作概要プラン】

企画 希望の灯製作事務局  
製作 希望の灯製作事務局 ⇒ 制作会社へ  
製作費目標 1億円(制作費7,000万円 宣伝費3,000万円)  
監督 篠原哲雄  
プロデューサー 佐々木祐滋(佐々木禎子さんの甥)・板橋昭平  
現地プロデューサー 古川康雄 (ひろしまフィルム工房)  
キャスト 未定

### 【スケジュール案】

2022年 9月～ 制作準備、監督設定  
脚本作業、事務局設立  
2023年 1月～ 撮影準備  
2023年 5月～ 撮影  
2023年 8月～ 仕上げ作業  
2024年 春 広島公開 ⇒ 全国へ

皆さまのご支援とご協力で本映画を作り上げて行きたいと思っております。皆さまのご協力を賜りたくよろしくお願いいたします。

(裏面へ続きます)

# ユネスコ世界記憶遺産登録へ

